

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 マタイによる福音書 3:1~17
2025年7月30日(水)

◆文脈と言葉

- 大人になった主イエスが、ガリラヤに登場し宣教活動をお始めになる、その前に、洗礼者ヨハネが登場します。
- 主イエスの誕生の物語はマタイとルカにしかありませんが、洗礼者ヨハネは4つの福音書すべてに描かれていることは注目に値します。主イエスは洗礼者ヨハネが備えた道を通して登場なされたのです。

◆黙想のすじみち

(1)あらすじと説き明かし

- 洗礼者ヨハネは、これまでの他の宗教指導者と違い、ローマ支配への武力抵抗をしませんでした。そうではなくて、人々に悔い改めを求めたのです。そして、これまでは単なる毎日の身の清めだった洗礼を、悔い改めの洗礼と位置づけました。それは人々が求めていたことでもあったため、あらゆるところから、人々が集まり、罪を告白し、洗礼を受けました。しかしヨハネが求めた悔い改めは、メシアを迎えるための大変厳しいものでした。
- マタイによる福音書では、主イエスと同じ「悔い改めよ。天の国は近づいた」という言葉をヨハネも発しています。主イエスとヨハネを近づけて、ヨハネがいかに重要な人物であるか印象付けます。
- また、この福音書では、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢洗礼を受けに来ますが、ヨハネの態度は敵対的です(7節)。この福音書では特に、この人たちとの関係が問題なることが示されています。それはなにより、律法の問題です。主イエスは律法を「廃止するためでなく、完成するため」に来られたのであり、弟子たちの義は「ファリサイ派の人々の義にまさって」いることを求められるのです。
- 当時の人は洗礼者ヨハネとナザレのイエス、どちらかが来たるべき預言者、あるいはメシアだと考えていたのかもしれませんが。けれども、13節以下で、主イエスが優位であることがはっきりします(14節)。
- なお、主イエスは神の正しいこと(御心の成就)として洗礼をお受けになります。罪人が受ける洗礼によって、ご自分は罪人ではないけれど、わたしたち罪人と同じになってくださいました。これがインマヌエル(神が我々とともにおられる)神であり、イエス(自分の民を罪から救う)神の姿です。
- 聖霊によって宿られた主イエスは最初から救い主ですが、ここで異例をうけることによって、神からはっきりと力を受けられたのです。